

國學院大學學術情報リポジトリ

久米島方言の用言のアクセント資料

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-10-28 キーワード (Ja): 久米島方言, 用言, 動詞, 形容詞, アクセント キーワード (En): 作成者: 上野, 善道 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000967

久米島方言の用言のアクセント資料

上野 善道

キーワード：久米島方言、用言、動詞、形容詞、アクセント

1. はじめに

これまでの一連の拙論（2017, 2019a,b, 2020a,b,c, 2021, 2022）で沖縄県島尻郡久米島町方言のアクセントを記述報告してきた。その報告は体言（名詞）が中心であったが、今回は初めて用言を対象とする。

もっとも、他からの移住集落を除いた、伝統的な久米島方言が話されている20集落余りの地点のうち、調査をしたのはわずかに4集落で、しかも動詞・形容詞の終止形（いわゆるン終止形）だけを対象としたものである。本来なら、最低でもこれらの地点で確認調査を行ない、加えて、特に名詞を調べている地点を中心にもう少し調査地点を増やし、内容面でも主要な活用形まで調べた上で報告するつもりでいた。しかしながら、久米島は2019年11月に調査をしたのが最後で、その後はコロナ禍でどこへも足を運ぶことができない状態が続いており、島内でオンライン調査のできそうな人も見つかっていない。先のことが読めないので、現段階での発表に踏み切ることにした。

なお、久米島方言の用言、特に動詞の活用形を扱った文法研究はいろいろあるが、用言のアクセントを扱った先行研究は見つからない。

2. 調査地点と話者

調査地点と話者情報を（1）に掲げる。カタカナは地元での発音で、音調表記は次節を参照。論述の関係で、これまでの拙論とは異なるが、旧具志川村から始めて反時計回りに並べる。仲地のみ旧具志川村、他は旧仲里村で

ある。

(1) 地点	話者	生年
仲地（なかし、ナカ[チ]	中村 昌昭氏	昭和9年生まれ
儀間（ぎま、ジ[マ]	日高 肇氏	昭和25年生まれ
比嘉（ひが、ジャー[ム、謝武]	儀間 光明氏	昭和12年生まれ
謝名堂（じゃなどう、ジャナ[ド]ー）	宮城 巖氏	昭和20年生まれ

このうち、今回初めて取り上げる集落は謝名堂である。また、儀間と比嘉は拙論（2017）で、比嘉は拙論（2019b, 2020b）でも取り扱ったが、いずれの話者とも今回は異なる（比嘉は2017と2019bは同じ話者）。仲地のみ、拙論（2019b, 2022）と同じ話者である。

3. 項目と表記

調査表とその項目は、奄美・沖縄方言における終止形アクセントの基本体系を1時間半程度の調査で明らかにすることを目的に作り、時に微修正をしながら長年使い続けているものである。その意味では、特に新しい点はない。

資料編の最初の「類」は、いわゆる金田一語彙の類別を表わす。「2a1」の最初の「2」はモーラ数（拍数）である。次は品詞活用情報で、「a」は1段活用、「b」は4段活用、「k」は形容詞である。なお、特殊活用の「する、来る、ある」は私に別扱いにして「c, d, e」としている。最後の「1」はその第1類を表わす。「2, 3」も第2類、第3類であるが、金田一語彙にない単語には「z」を与えた。

調査は、資料編の見出し項目をそのまま一覧表にしたものを話者に見せながら進めている。動詞・形容詞は特に多義的な意味をもつが、括弧内の注記で「休む（休憩；学校を）」のように「；」で区切ったのは、それまでの他島での調査経験から、その意味の違いに応じて違った語形が得られる可能性が高いと見た項目である。一部は「会う[合]」のように、漢字で代用した。

しかし、多義的な単語の意味記述が調査目的ではないので、注記の多くは、

むしろ話者が答えやすいように導くとともに、質問内容がなるべく等質的になることを狙った。限られた調査時間を有効に使うためである。「死ぬ(犬が)」も、人が死ぬ場合は別の敬意表現を用いる方言もあるため、ここは「死ぬ」の対応形をすぐ求めたいと考えた結果である(敬語に立ち入ると、それはそれで一つの別の大きなテーマになってしまう)。「見る、取る」のように、漢字の使い分けも含めてあまりにも多義的でありながらも、対応語形を得るには特に支障がないと見た項目は、意図的に注記を省いた。

また、「始める(仕事を)」と「始まる(仕事が)」や「開(あ)く(戸が)」などの注記は、自動詞と他動詞を明示するために付けた。それというのも、全国各地で経験することであるが、「始まる」の項目に「始める」で、「開く」の項目に「開ける」で答える話者が実に多いからである。このような注記を付けておいてさえ、たとえば「開ける」がまず返って来る。それを書き取って感謝の言葉を述べながら、「では「戸が」に続く場合だとどう言いますか? 「戸を」ではなくて」という質問を、それも何度も繰り返さざるを得ないほどである。自他は対等な対立関係にあるのではないことがよく分かる。

音調表記は、[: 上昇、] : 下降で示す。ただし、後に述べるように、中程度の高さ、あるいは重音節全体の中で中程度から上昇する音調も頻出する。発話の揺れも大きい。これらは調査表の記載そのままではなく、適宜簡略表記をした。その上で、必要な情報は本論の中で述べることにした。

ただし、言い切り形では下降するが、回答の中で直後にドー(よ)やトカが続くか、実際に続かなくても何か続けて言う態勢で発音したと解される発話ではその下降が消える現象もよく観察された。それは括弧に入れてアチ[ミ()]ンのようにした。アチ[ミ]ン、アチ[ミン]ドーのような例である。

「踊る」の儀間方言にモ[ーユ]ン(舞う)と並んで出て来るモ[ー]イ_スン(舞いする)のようなサ変動詞は、2単位形と見て、また分かりやすさも考えて「_」で切れ目を示した(ただし、このスンは前にそのまま低く続く)。

語音表記は、これまでと同様にカナ表記を用いた。いくつかの項目に調査表では声門閉鎖音を記録してあるものがあり(調査表への記入は常にIPA表記)、特に「泳ぐ」は4地点とも「ツウィージュン」に相当する形を書い

であったが、比嘉方言は声門閉鎖音のない発音も出、儀間方言では、そのない形を記録していた「酔う」の「ウィーイン」の語頭音との区別はないように意識するということだったので、すべての方言においてその表示は省いた。(仲地方言では、「植える、追い付く、追い越す」にもそれを記録してあるが、同じ処理をした。) 母音の無声化は特に示さなかったが、音調に関与していると認められた箇所のみ、母音の右横に半角の「。」を入れた。

語形に対する注記は、意味・用法、対応形などを括弧で示した。「(進)」は「～ている」意の進行形で、その用法の方が普通に出て来る例であり、「(他)」、「(自)」は対応する他動詞形、自動詞形、「(受)」は受身形である。また、形容詞の少なくとも一部、とりわけ基礎的色名の「赤い、青い、黒い、白い」などは「赤、青、黒、白」の名詞形がよく出て来る(ないし、その方がむしろよく使うという)ので、その形を「(名)」として掲げた。形容詞形の調査に重点を置いたが、逐一確認をすれば名詞形がもっと出て来る可能性がある。

その他、「(OK)」は、確認した限り、これで可であること、「(<-)」は対立語、<古>は古い語形、<今>は最近の語形、<稀>は稀な語形、<x>は使わない語形、【 】は私の注記、[?]は疑問あり・要確認という私の判断をそれぞれ意味する。

4. 分析

琉球方言の動詞はその連用形に「ウン<居り」、形容詞はそのサ名詞形を基本としてそれに「アン<あり」が融合してできていることは、その「ン」が「リ」の後にさらに何が付いてできた形かは別として、すでに確立した考えと認められるので、名詞と動詞と形容詞は、アクセント上はひとまず別扱いをして見ていく必要がある。以下でも、動詞と形容詞は分けて論ずる。なお、たとえば「思う」における「ウムン、ウミン、ウムユン、ウミユン」などの語形の相違はここでは扱わず、専らそのアクセントを対象とする。

4.1 仲地方言

4.1.1 仲地方言の動詞のアクセント

仲地方言の動詞は（２）のように２つの系列からなっている。

（２） α ：[スン（する）]；[ニユ]ン（煮る）、[マツ]ン（巻く）；[アギ]ユン（上げる）、[アガ]ユン（上がる）；[ハジ]ミユン（始める）、[ハジ]マユン（始まる）；[カー]ラカスン（乾かす）

β ：ア[ン（ある）]；ミユ[ン（見る）]、マツ[ン（蒔く）]；サギ(ユ)[ン（下げる）]、サガユ[ン（下がる）]；ナガリ[ユ()]ン（流れる）、アチマ[ユ]ン（集まる）；ウルル[カ]スン（驚かす）

α 系列は高く始まり、それが２モーラ目まで続いてその直後に下降する型である。 β 系列は低く始まり、４モーラ目だけが高くなる型が基本で、それより短い語形の場合は４モーラ目に最も近い語末モーラが高くなる。どちらも例外は見つかっていない（ナガリ [ユ()]ンについては4.1.2で触れる）。

同源語における類別の対応関係では、 α 系列が第１類、 β 系列が第２類にほぼ対応する（金田一語彙にない z 類も、本土方言との対応から同じことが言える）。複合動詞は数が少なく、しかも前部要素が β 系列の語例は得られていないが、 α 系列が前部要素に立つ複合動詞は α 系列になっている。[イチャ]ユン（会う＜行き会う）、[ウィー]チチュン（追い付く）などである。

音調で注意すべき点は、 β 系列３・４モーラ語のサギ[ン（下げる）]、サガユ[ン（下がる）]、トゥユ[ン（取る）]、カクス[ン（隠す）]などである。こう表記しても、最後のンで急上昇するのではなく、語末音節の出だし（つまり、語末から数えて２モーラ目の次末モーラ）から上昇し始め、その音節内で中程度から高いところに至る感じで、最初はギン、ユン、スンが高くなると書き取ったくらいである。その後すぐに確認をして、ンで弱まることなく、むしろさらに少し上がることから、ンで上昇と解すべきだと改め、以後はそう表記した（２モーラ語のア[ンは低く始まり、ンだけが上昇する）。これと類似の現象は他の３方言にも見られる（とりわけ4.3.1節の比嘉方言を参照）。

もう一つ触れるべき点があるが、形容詞のところで述べる。

4.1.2 仲地方言の形容詞のアクセント

形容詞は(3)のようになっている。ほとんどが4モーラ語で、それより長い α 系列の語例が欠けている(一)が、今回はこの中で考えるしかない。

(3) α : [アチサ]ン (厚い)、[ガッサ]ン (軽い)、[クーサン (小さい) ;

—

β : アチ[サ]ン (熱い)、ヤッ[サン] (安い)、フー[サ]ン (欲しい) ; ウ
トゥル[サ]ン (恐い)、シッパ[サ]ン (酸(っぱ)い)、ミジカ[サン] (短
い)

α 系列は、動詞が語頭から2モーラ高くなるのとは異なり、形容詞では高く始まって3モーラ高く続くが([クーサンは後述)、 β 系列も参照すると、むしろ次末モーラ(−②)まで高くなると見る方がよさそうである。そう捉えると、欠けている5モーラ語は[○○○○]ンである蓋然性が高くなる。動詞と形容詞の位置付けも含めて、なお検討が必要である。

一方、 β 系列は、5モーラ語まで考えると、低く始まり、次末モーラで高くなり、その直後で下がる型と見られる(ヤッ[サンとミジカ[サンは後述)。先取りをして述べておくと、この方言の形容詞のみを語末から見た次末位置での上昇と規定するのは、のちに詳述する4.3比嘉方言と4.4謝名堂方言の動詞・形容詞の場合とは分析方法が異なる。それは、後者では5モーラ語以上において語頭から見た上昇位置の対立のある語例が見つかるのに対して、仲地方言ではそのような例が得られていないからである。

他に、(3)に収まらないネーラ[ン (ない) が1例だけあるが、これは動詞扱いすべきで、(2)の β 系列に属するものとする(この点は儀間方言や比嘉方言も同様である)。

形容詞には本土方言と同源ではない語例も増えるが、同源語に関する限り、やはり α が第1類、 β が第2類に対応する。その中で、古文献上での揺れが

問題になっている「青い」が[オーサ]ンで、第1類相当の対応を示す点が注目される。

問題は、後述するとした、まず β 系列ヤッ[サン、ミジカ[サンである。実は調査の最後の段階、形容詞の後半部に至って、ヒル[サン（広い）、フル[サン（古い）、ヤッ[サン（安い）から最後のウム[サン（面白い）に至るまで、立て続けに-[サンの中で下降しない形が発せられたのであった。そこで前に戻って再度聞いたところ、最初マー[サン（旨い）、チュラ[サン（きれい）、ヒル[サン（広い）と下降していた形にもマー[サンなど下降のない形が出た。両型をこちらで発音して内省を聞いたところ、どちらでもおかしくないとの答えで、調査中の談話にも「チュラ[サンヤー（きれいだね）、ミジカ[サン]トシカ言わない」などが出てきた。すべての例に渡って逐一確認はしなかったが、おそらく、私の言う「言い切り形」と「接続形」に類する違いではないかと推測する。関連して、(2)に示したように、動詞でもナガリ[ユン（流れる）を下降のないナガリ[ユンと発音した例も記録している。

従って、 β 系列は、4モーラ目から上がる動詞に対して、形容詞は次末モーラから上がるという違いはあっても、それぞれの上昇位置が固定していることが有意であり、その後に出て来る下降は単語に固有のアクセント特徴ではないことになる。

同様に、 α 系列の[クーサンにも[クーサンがあるものと推定する。併せて記すと、動詞[ニユン（煮る）の調査中に「これは[ニユン]ジャ（だ）」が出たのを録音してあることから、 α 系列の、高く始まって次末位まで続いてそこで下降する型全般に、言い切り形以外では同じ現象が起こる可能性がある。これも含めてまとめるとすると、この現象に両系列に共通して関わっているのは、「次末位における下降」の有無ということになる。機会があれば、この仮説の検証を試みたい。（4.4.1節の謝名堂方言も参照）

4.2 儀間方言

この方言は、拙論（2017）でも扱ったように重起伏調（二山型）があり、隣接するが旧村を異にする嘉手苅（かでかる、[カディ]カ[ル。旧具志川村。

拙論2019a,b, 2020b,c) とともに特徴的である。

4.2.1 儀間方言の動詞のアクセント

まず、動詞の例を(4)に示す。一段動詞の形成法の関係で(2)の仲地方言よりもモーラ数が減っている点が異なる。

(4) α : [スン (する)、[ニン (煮る) ; マ[チュ()]ン (巻く)、ア[ギ]ン (上げる) ; ア[ガイ]ン (上がる)、ハ[ジミ]ン (始める) ; ハ[ジマ]イン (始まる) ; ウィ[ーコース]ン (追い越す)

β : ア[ン (ある)、ミ[ン (見る) ; [マ]チュ[ン (蒔く)、[サ]ギ[ン (下げる) ; [サ]ガイ[ン (下がる)、[ナ]ガリ[ン (流れる) ; [ア]チマイ[ン (集まる) ; [ヌガ]ーラス[ン (許す)

儀間方言の音調は微細な点の観察が容易ではなく、注記を要する点が多い。細部の記述に入らざるをえないので、先に体系上の結論を述べておく。

α 系列は、概略中程度から始まって第2モーラからははっきり高くなり、3モーラ語以上では次末モーラの後で下降する型(ハ[ジマ]インは後述)と捉えられる。これは、仲地方言の(2)の型から4モーラ語以上において下降が遅れて次末モーラまで移り、併せて、語頭の上昇も遅れがちになった姿、という関係にある。

β 系列は、3モーラ以上において語頭と語末が高くなり、中が凹む二山型を取る。2モーラ語においては語頭の高まりが現われる余裕がないものの、集落名のジ[マ]に主格助詞を付けると [ジ]マ[ガ]となるように、3モーラ以上になる活用形においては[○]○[○]等が出るものと予測される。

戻って、ここから細部に入る。 α 系列は、[スン (する) は表記通りと観察したが、[ニン (煮る)、[チン (着る) の語頭は低めで、普通上昇の[に対して中上昇を「%」で表わすと%ニ[ン、%チ[ンで出る。これが、語頭がはっきり低い β 系列のア[ン (ある)、ミ[ン (見る)、チュ[ン (来る) と対立している。マ[チュ()]ン (巻く)、ア[ギ]ン (上げる) も同じく%マ[チュ]

ン、%ア[ギ]ンである。語形が長くなるほどこの中上昇は目立たなくなり、ハ[ジマ]インなどは通常の第2モーラからの上昇とまず同じに聞こえる。ただ、この連続的な現象に対してどこかで線を引き、その一方に逐一「%」を付すのは煩雑なので、2モーラ語のみ β 系との対立表示の関係で高始まりの記号〔〕を付け、3モーラ以上は低始まりの無表示とした。その他に、ウシ[キー]ン（押す）のように、第2モーラの無声化により上昇が第3モーラからとなる例もある。

ハ[ジマ]イン（始まる）は別の補足が必要である。他の語末は-○ンとなっていて、-アイン終わりでも、シ[マイ]ン（終わる）、カ[ザイ]ン（飾る）、マ[ガイ]ン（曲がる）などである。ハ[ジマ]インは、話者が「ハ[ジマ]イ、ハ[ジマイン]ドー（始まるよ）」を答えた後で、付け足すように言った形である。儀間方言の動詞は、ハ[ジマ]イのようにンの付かない形でも使える。ンの付かない形は最初の回答にしばしば出てきて、中にはア[タイ]（当たる）のようにこの形だけでそのまま先に進んでしまったものや、カ[タマ]イ（固まる）は出ても-ン形がついに出なかった項目もある。その中で両形を記録してあるカ[サバ]イとカ[サバイ]ン（重なる）との関係や体系全体から見て、これは対立ではなく、ハ[ジマイ]ンの臨時的変種だと考えられる。

β 系の二山型においても音調の微妙な問題がある。まず、語末の上昇であるが、仲地方言とよく似た現象が見られ、早口の発音では-○[ンか-○ンか紛らわしい例も出てくる。

語頭の高まりについては次の2つの問題がある。まず、時に語頭に高まりが観察されないことがある（強めはある）。語末の高まりは必須なのに対して、語頭のそれは二次的（同時に通時的にも後からの発達）と考えられる。その中でも、トゥイ[ン（取る）、ウイ[ン（折る、[ウ]イ[ンとも）、ファイ[ン（降る、掘る、[フ]イ[ンとも）で、-uiNの音節構造の単語に多いことが目につく。終止形がこの音調で出ても、例えば否定形は[トゥ]ラ[ン（取らん）となることから、トゥイ[ンも[トゥ]イ[ンとしての働きを持っていることが分かる。

もう一つは、語頭の上昇が1モーラとは限らず、時に2モーラ続くことが

ある点である。[イツ]チュ[ン（生きる）]、[カク。]ス[ンのように、第2モーラが促音や無声化母音の場合は音声的に重音節を形成する結果、2モーラ全体が高くなるのは自然であるが、それ以外の環境でもそう聞こえる例がときどきある。代表例は[カメ]ーユ[ン（拾う）]、[ヌガ]ーラス[ン（許す）]などである。この両者はたまたま構造が類似しているが、他の環境にもあり、どちらとも言い難い例にも遭遇する。ただし、それによって対立する例は見づかっておらず、これも変種と考える。

この現象に関連して、拙論（2017：57-61）の儀間方言は別の話者に名詞を聞いたものであるが、（5）のように、4モーラ語の二山型は語頭2モーラが高くなっている。

- （5）[アカ]チ[チ（曉）]、[ウツ]ク[イ（風呂敷）]、[ゴー]ヤ[ー（苦瓜）]、[チン]ブ[ル（頭）]、[ヌク]ジ[リ（鋸）]

この音声レベルの差は、地域差と個人差が反映している蓋然性が大きい。話者からの情報によれば、儀間集落はもともと山の方にあった3つの別集落が水田のある地域に下りてきてできたものであるという。その差が今もわずかに残っていて、外部の人には分からなくても、地元の人同士なら感ずる程度の違いはあるとのことである。そのこととどこまで、どのように関係するか不明ながら、私が久米島の中で最も多くの話者に接したのは儀間集落である。かなりの個人差があったので話者を増やして聞いたためである。

付け加えると、これは程度の差こそあれ、久米島全般に言えそうなことである。首里・那覇からの移住集落が多く（鳥島集落だけは奄美から）、カイクン（開墾）で呼ばれる集落もある。伝統的な集落にも移住者は入っており、たとえば比嘉などではその影響を受けているという情報も話者から得られている。その反映なのか、久米島方言全般にアクセントの揺れが大きいと感ずることも記しておく。

4.2.2 儀間方言の形容詞のアクセント

形容詞は（６）のようになっている。

（６） α ：ア[カサ]ン（赤い）、ガッ[サ]ン（軽い）、トゥ[ーサ]ン（遠い）；

—

β ：[シ]ルサ[ン（白い）、[ヤッ]サ[ン（安い）、[フ]ーサ[ン（欲しい）；

[イン]チャサ[ン（短い）、[ウカ]ーサ[ン（危ない）、[ウトゥ]ルサ

[ン（恐い）

仲地方言と異なり、儀間方言は動詞も形容詞も似た仕組みになっており、動詞は３モーラ以上、形容詞は４モーラ（以上）において α 系列と β 系列が高低に関して事実上の鏡像関係をなしている。また、仲地方言と比較して見ると、形容詞の α 系列は上昇位置が基本的に１モーラ後ろにずれており、 β 系列は次末モーラの上昇がやはり１モーラ後ろにずれて、さらに語頭が１モーラ（５モーラ語ではむしろ２モーラ）高くなった関係にある。

語音との関係では、促音は直前のモーラと緊密な音節を形成し、４モーラ語（以上）では全体で低いか高いかのどちらかを取る（ガッ[サ]ン、[ヤッ]サ[ン）。しかし、長音は従属せずに独自の振る舞いをするのが普通である（トゥ[ーサ]ン、[フ]ーサ[ン。なお[シー]サ[ンも記録してあるが、対立にあらず）。

4.3 比嘉方言

4.3.1 比嘉方言の動詞のアクセント

動詞の型を（７）に示す。この方言は３つの系列を立てる必要がある。

（７） α ：[ス()]ン（する）、[ニン（煮る）；[マツ]ン（巻く）、[アギ]ン（上げる）；[アガ]イン（上がる）、[ハジ]ミン（始める）；[ハジ]マイン（始まる）

β ：ア[ン（ある）、ツ[ン（来る）；マツ[ン（蒔く）、サギ[ン（下げる）；

サガ[イン (下がる)、ナガ[リ]ン (流れる)；アチ[マ]イン (集まる)
γ：ー；ー；ー；ナガリ[ユ]ン (流れる)；ウルル[カ]スン (わっと驚
かす)

α系列は、高く始まってそのまま2モーラ続いた後で下がるが、次末位にある下降は「ウイン (売る)、[ウイ()]ン (織る) などのように消えることがあり、「する」の[スン]、[スン]トカもその流れの中にあると見る。また、[アレー]ン (洗う)、[キザー]スン (かき混ぜる)、[ンケー]ユン (向かう) など、第3モーラが長音の環境では、語頭から第3モーラまで高くなる。

β系列は、低く始まって第3モーラで上昇して、その直後で下降する。4モーラ語では次末下降となるので、やはり条件によって消失する。短い2モーラ語の場合は、その範囲で第3モーラに最も近い語末モーラが高くなる。

比嘉方言のβ系列3モーラ語の○○ンの音調は、4.1.1節で見た仲地方言よりも一層その上昇位置が微妙である。調査では、時に明瞭に○○[ンと聞いた例もあるものの、多くの単語は○[○ンと記録したが、録音を聞き直してそのほとんどを○○[ンと改めた。やはり次末モーラ自体がかなり高まり、ンにかけてさらに少し上昇する音調である。その中で、マ[ツン (待つ) は確かにこう聞こえてそのまま表記しておいたが、カツ[ン (書く、勝つ)、サツ[ン (裂く)、マツ[ン (蒔く) などとの差はごくわずかで、時にはその間を揺れたりする例もあって両形の間に対立はなく、圧倒的多数派の○○[ンをその型と捉えた。

拙論 (2017:50-51) の比嘉方言では、話者は異なるが、(8) のように、「杖」は発音が2種類あり、グサ[ヌでは他と同じ音調を取るが、語末ガンの形ではグ[サンとなっていることも参考となろう。

(8) ハサ[ミ (鋏)、クイ[ミ (暦)、イキ[ガ (男)、グサ[ヌ〜グ[サン (杖)

ここまでは良いとして、(7) の5モーラ語以上で新たな問題が出て来る。「流れる」のナガ[リ]ンと並ぶもう一つの5モーラ語の形は上昇位置が異な

るナガリ[ユ]ンであり、アチ[マ]インとは音調が違うのである。ナガリ[ユ]ンのように第4モーラで上昇する型には、他にも(9)のような例が見つかる(下降の有無は不問)。

- (9) ウサミ[ユ]ン(納める)、ウラミ[ユ]ン(恨む)、カサギ[ユ]ン(孕む)、
カツァー[スン(掻き回す)、カマー[ユ]ン(拾って自分のものにする)、
クジリ[ユ]ン(崩れる)、シンディ[ユ]ン(崖が崩れる)、タジニ[ユ]
ン(訪ねる)、ナレー[ユン(習う)、ハレー[ユン(払う)、ミダリ[ユ]
ン(髪が乱れる)、ワカリ[ユ]ン(別れる)；ウドウル[カ]スン(わっ
と驚かす)

一方、アチ[マ]インのように第3モーラで上昇する型の単語は(10)がある。

- (10) アジ[カ]イン(預かる)、カー[カス]ン(乾かす)、カン[ミ]ユン(隠す)、
ジャー[マ]スン(心が乱れる)、シン[リ]ユン(滑る)、タシ[カ]イン
～タシ[カイ]ン(助かる)

ここでも下降の揺れが反映されているが、本質的な上昇点に着目すると、アチ[マ]インが聞き間違いであったり、偶然だったりするとは考えにくい。

また、活用型に着目すると、そもそも活用形を聞いておらず、また、本土方言と対応しない単語もあって現段階でははっきりしたことは言えないが、ナガリ[ユ]ンの型を取る(9)には1段活用(母音語幹)動詞が多く、アチ[マ]インと同じ型を取る(10)には5段活用(子音語幹)動詞が目立つという現象はある。しかし、完全な棲み分けとは見えない上に、仮に両形が活用型において相補分布をなすとした場合でも、アクセント解釈はあくまでも音条件にのみ基づいて行なうという立場に立つ私は、両者は別アクセントと見る。このことは、次の形容詞からも傍証が得られる。

結論として、5モーラ語以上において、という偏った分布ではあるが、(7)

のように第3の系列として γ 系列も認めなければならないことになる。

一点だけ補足しておくと、「流れる」のナガ[リ]ンは β 系列なのに、もう一つの形のナガリ[ユ]ンは γ 系列という点が問題となるかもしれない。その解決には、3系列案の中で5モーラ語の β 系列と γ 系列の所属語彙を入れ替えて、ナガリ[ユ]ンを β 系列、アチ[マ]イン（集まる）を γ 系列とする案が考えられる。この場合、数え方を語末からの方式に変えて、 β 系列は次末モーラでの上昇、 γ 系列は前次末モーラ（－③）での上昇と捉えることになる。

しかしながら、こう考えると、 β 系列の3モーラ語以下の説明が容易ではなくなる。2モーラ語の「ある」は次末型では[アンになるものの、 α 系列[ニン（煮る）との対立を維持するために上昇位置が語末位に移動してア[ン]になるとしたとしても、3モーラ語のサギ[ン（下げる）は次末位上昇のサ[ギン]のままであっても α 系列の[アギ]ン（上げる）との対立は維持される。それなのになぜ語末位まで移動するのか、その説明が困難になってしまう。

結局、比嘉方言の動詞は、(7)に示した形の3系列の体系となる。

4.3.2 比嘉方言の形容詞のアクセント

比嘉方言の形容詞を(11)に示す。

(11) α : [アカ]サン（赤い）、[ガッ]サン（軽い）、[トゥー]サン（遠い）；

—

β : シル[サ]ン（白い）、ヤッ[サ]ン（安い）、フー[サ]ン（欲しい）；

イン[チャ]サン（短い）

γ : —；ウカー[サ]ン（危ない）、ウトウル[サ]ン（恐い）

α 系列は語頭2モーラが高くなる型、 β 系列は、5モーラ語まで含めると第3モーラで上昇する型と認められる。(11)には出ていないが、 β 系列のユタ[サ()]ン（良い）に見るように、ここでも下降は必須条件ではない。

重要なのは、ここでも、5モーラ語に β 系列のイン[チャ]サン（短い）と γ 系列のウカー[サ]ン（危ない）、ウトウル[サ]ン（恐い）の区別があるこ

とである。形容詞の場合、やはり活用形は未調査ではあるものの、その終止形の音形から見ても、その語彙的意味から見ても、ク活用／シク活用の活用型の違いはおそらくなく、文法情報を手掛かりに同一の型と見ることは、動詞の場合よりも一層困難と考える。

従って、比嘉方言は形容詞も3系列の区別があり、低始まりの中で β 系列は語頭から3モーラ目、 γ 系列は語頭から4モーラ目で上昇する型ということになる。そして、この解釈が動詞における3系列説を支えるものと考えられる。

4.4 謝名堂方言

最後は謝名堂方言で、この方言は語音の特徴として、サ行動詞が-スンではなく-フンになり、形容詞の-サンも、その直前の母音が-u(:)か促音のときのみ保持され、それ以外の時は-ハンとなるのが基本である（一部に例外がある）。

4.4.1 謝名堂用言の動詞のアクセント

動詞の例を(12)に掲げる。1段動詞が、ニユン（煮る）に対してミン（見る）であることから、そこは長さの点で不揃いになっている。

(12) α : [スン（する）]、[ニユン（煮る）]；[マチュン（巻く）]；[アギ]ユン（上げる）、[アガ]ユン（上がる）；[ハジ]ミユン（始める）、[ハジ]マユン（始まる）；[トゥビ]ハニユン（跳び跳ねる）

β : ア[ン（ある）]、ミ[ン（見る）]；マチュ[ン（待つ）]；サギ[ユ()]ン（下げる）、サガ[ユ]ン（下がる）；ナガ[リユ]ン（流れる）、アチ[マユ]ン（集まる）；ウル[ルカ]フン（驚かす）

γ : ー；ー；トゥメー[ユン（拾う）]

α 系列の2音節3モーラ語までは高く始まって語末のンまで高く続く点が他方言と違っている。ところが、4モーラ語以上になると、他方言と同じく語頭2モーラ語だけが高くなる。これは前部要素が α 系の複合動詞でも例外

がない。つまり、語形の長さ・構造によって実現の仕方が異なっているのが謝名堂方言の特徴である。これは、4.1.2節の最後で仲地方言の〔ニユ〕ンに関して述べた現象が軽音節+重音節構造で固定化したものと考えられる。

一方、 β 系列は、低く始まって第3モーラで、それより短い2モーラ語ではそれに最も近い語末モーラで、それぞれ上昇する。そして、4・5モーラ語では次末位で下降するが、その下降は一定条件の下に消えることがある。それも、クジ[リ()]ユン(崩れる)の他にも、ミダ[リ]ユン、ミダ[リ]ユン、ミダ[リユン(乱れる)]；タジ[ニ]ユン、タジ[ニユ]ン、タジ[ニユン(訪ねる)]などもあって種々の揺れが見られるが、いずれもポイントとなる上昇位置は第3モーラで動かず、これらはすべて同じアクセントの変異形と解される。

問題となり得るのは γ 系列で、第4モーラで上昇するトゥマー[ユン(拾う)]という単語が1つだけあることである。しかしながら、調査時のこの発音は安定しており、第3モーラが長音ゆえに β 系列から1モーラずれたと見る根拠も乏しい。さらに、後述の形容詞も考えると、比嘉に距離的に近い位置にある謝名堂方言もまた、3系列の対立を持つと見るべきものと考ええる。

4.4.2 謝名堂方言の形容詞のアクセント

残るは形容詞で、(13)のようになっている

- (13) α : [アチハ]ン (厚い)、[ガッ()]サン (軽い)、[ミーハ]ン (新しい)；

—

β : アチ[ハ]ン (熱い)、ヤッ[サ()]ン (安い)、フー[サン (欲しい)]；

イン[チャ]ハン (短い)、ウトゥ[ラ]ハン (恐い)

γ : —；ウカー[ハン (危ない)]

α 系列は高く始まって原則として3モーラ続く型を取る。ただし、[ガッ]サン (軽い) や [アッ]サン (浅い) の語頭促音節語は、なぜか第2モーラまでで止まっている。しかし、少なくとも「軽い」については、[ンブハ()]ン (重い) などと同様に、この下降が消える[ガッサン]も記録してある。も

う一つ、語頭長音節語の [トゥー]ハン（遠い）も 2 モーラ高いが、[ミーハ]ンとの条件の違いは不明である。しかしながら、下降の位置が有意であるとは考えにくいので、これも変異関係にあるとみなすことにする。

β 系列は、第 3 モーラで上昇する型である。この方言では、ウトゥ[ラ]ハンとイン[チャ]ハンは同じ音調型であり、その点で問題はない。

残る γ 系列は、やはりウカー[ハン（危ない）]の 1 例だけであるが、これは比嘉方言の γ 系列ウカー[サ]ンと同じ単語である。1 例ではあっても謝名堂方言に γ 系列を立てるべきで、これが動詞にも 3 系列を立てる論拠にもなる。

結論として、謝名堂方言の用言は、 γ 系列の語例は少ないものの、3 系列の体系となる。

5. まとめ

調査をした久米島の 4 方言の動詞・形容詞のアクセントは、相互にはっきり異なる音調型を持っているが、体系という観点から見ると、比嘉方言と謝名堂方言は 5 モーラ語以上では $\alpha \cdot \beta \cdot \gamma$ の 3 系列の区別を、4 モーラ語以下では α と β の 2 系列の区別を持ち、残る仲地方言と儀間方言は長さを問わず α と β の 2 系列の区別を持っている。後者の 2 系列体系の中では、仲地方言が動詞と形容詞で音調型が異なるという特徴を持つ。儀間方言は、動詞の α 系列が長さによる音調の変異を見せる。これらの系列は式音調に当たるものであろう。課題は残るが、以上が現段階での報告である。

[参考文献]

- 上野善道（2017）「久米島方言のアクセント資料」木部暢子編『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 久米島方言調査報告書』、国立国語研究所：43-61.
- 上野善道（2019a）「久米島方言のアクセント資料（2）」『南島文化』41：83-92.
- 上野善道（2019b）「久米島方言の体言のアクセント資料」『琉球の方言』43：131-172.
- 上野善道（2020a）「久米島方言のアクセント資料（3）」『南島文化』42：193-208.
- 上野善道（2020b）「久米島方言の体言のアクセント資料——那覇語彙（1）——」『琉球の方言』44：189-241.

上野善道 (2020c) 「久米島方言のアクセント資料 (4)」『南島文化』 43 : 105-121.

上野善道 (2021) 「久米島方言のアクセント資料 (5) —— 具志川方言 ——」『南島文化』 44 : 109-127.

上野善道 (2022) 「久米島方言の体言のアクセント資料——那覇語彙 (2) ——」『琉球の方言』 45 : 19-70.

[付記]御教示くださった中村昌昭氏、日高肇氏、儀間光明氏、宮城巖氏に厚く御礼を申し上げます。細部の不統一を指摘して下さいました査読者にも感謝する。

本稿は JSPS 科学研究費19H00530 (代表者：窪菌晴夫) による研究成果の一部である。同時に、国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」(プロジェクトリーダー：窪菌晴夫)、並びに「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」(プロジェクトリーダー：木部暢子) の研究成果も兼ねる。

類	項目	仲地	機間	比嘉	謝名堂
2a1	着る	[チュ]ン	[チ]ン	[チュ]ン	[チュ]ン
2a1	煮る (芋を)	[ニユ]ン	[ニ]ン	[ニ], [ニー]ユン	[ニユ]ン
2a2	見る	ミユ[シ]	ミ[シ]	ン[ズ]	ミ[シ]
2b1	開く (戸が)	[アチュ]ン	ア[チュ]ン	[アツ]ン	[アチュ()]ン
2b1	言う	[イユ]ン	[ア]ピ[シ]ン (大声で), [イン~イ]ー	[イー]ン, [イユ]ン	[イユ]ン
2b1	行く	[イチュ]ン	イ[チュ]ン	[イツ()]ン	[イチュ]ン
2b1	売る	[ウユ]ン	ウ[イ]ン	[ウイ]ン	[ウユ]ン
2b1	追う (後を)	[ウー]ユン	ウ[ー]イ[シ]	[ウー]クルスン, [ウー]ユン	[ウー]ユン
2b1	置く	[ウチュ]ン	ウ[チュ]ン	[ウツ]ン	[ウチュ]ン
2b1	押す (後ろから)	[ウシ]ユン	ウシ[キー]ン	[ウス]ユン	[ウス]ユン
2b1	織る (機を)	[ウユ]ン	ウ[イ]ン	[ウイ]ン, [ウユ]ン	[ウユ]ン
2b1	買う	[コー]ユン	コ[ー]ユン	[コー]イ[シ] (主), [コー]ユン	[コー]ユン
2b1	貸す	[カシ]ユン	カ[ラス]ン	[カラ]ス	[カラ]フ
2b1	刈る (稲を)	[カユ]ン	カ[イ]ン	[カイ]ン, [カユ]ン	[カユ]ン
2b1	聞く	[チチュ]ン	チ[チュ]ン	[チツ]ン	[チチュ]ン
2b1	汲む (水を)	[クム]ン	ク[ミ]ン, ク[ム]ン	[クム]ン	[クミ]ン
2b1	消す (火を)	[ケー]ス	ケ[ー]ス[シ]	[ケー]ス	[ケー]フ
2b1	咲く	[サチュ]ン	サ[チュ]ン	[サツ]ン	[サチュ]ン
2b1	敷く	[シチュ]ン	シ[ツ]ン	[シツ]ン	[シチュ]ン
2b1	死ぬ (犬が)	[シス]ン, [シヅ]ン (進)	シ[ス]ン	[シニ]ン, [シス]ン	[シニ]ン
2b1	吸う (乳を)	[スユ]ン, スム[シ]ン (飲む)	ス[ー]イ[シ]	[スー]ユン, [スー]イ[シ], (タバコを)	[スー]ユン
2b1	足す	[タス]ン	タ[ス]ン	[タス]ン (古くは何かあったが)	[タス]
2b1	突く (棒で)	チチシユ[シ]	チ[ツ]ン	[チツ]ン	[チチュ]ン
2b1	継ぐ (あとを)	[チジュ]ン	チ[ジュ]ン	[チズ]ン	[チジュ]ン
2b1	積む	[ツミ]ユン	チ[ミ]ン	[チム]ン	[チミ]ン
2b1	釣る	クワース[シ]ン (食わず)	[クワ]ー[ス]ン	クワ[ー]ス[()]ン	クワ[ー]フ
			Cf. [クワ]ー[サ] [ー (釣人)]		

類	項目	仲地	様間	比嘉	謝名堂
2b1	飛ぶ	[トウブ]ン	トウ[ブ]ン	[トウブ()]ン	[トウビン]
2b1	泣く	[ナチュ]ン	ナ[チュ]ン	[ナツ]ン	[ナチュ()]ン
2b1	鳴く	[ナチュ]ン	ナ[チュ]ン	[ナツ]ン	[ナチュン]
2b1	鳴る	[ナユ]ン	ナ[イ]ン	[ナユ()]ン	[ナユン]
2b1	抜く(釘を)	ヌチュ[ン]	[ヌ]ジュ[ン, スチュ[ン]	ヌズ[ン]	ヌジュ[ン, スチュ[ン]
2b1	塗る	[ヌユ]ン	ヌ[イ]ン	[ヌユン, [ヌイ()]ン]	[ヌユン]
2b1	乗る	[ノー]ユン, [ヌユ]ン	ノ[ー]イ[ン]	[ヌユ]ン ([ノー]イ[ン]を訂正して)	[ヌユン]
2b1	貼る[張]	[ハユ]ン	ハ[イ]ン	[ハユ]ン	[ハユン]
2b1	引く	[ヒチュ]ン	ヒ[ツ]ン (OK)	[ヒツ]ン	[ヒチュン]
2b1	拭く	[フチュ]ン	フ[チュ]ン, [ス]グイ[ン]	[フツ]ン	[フチュン]
2b1	振る	[フユ]ン	フ[イ]ン	[フユ]ン, [フイ]ン	[フユン]
2b1	巻く(糸を)	[マツ]ン	マ[チュ]ン	[マツ]ン	[マチュン]
2b1	向く(後ろを)	[ムチュ]ン	ム[チュ]ン	[ムツ]ン	[ムチュン]
2b1	揉む(肩を)	[ムム]ン	ム[ミ]ン	[ムミ()]ン (主), [ムム()]ン	[ムミン]
2b1	盛る	[ムユ]ン	ム[イ]ン	[ムイ]ン, [ムユン]	[ムユン]
2b1	焼く	[ヤチュ]ン	ヤ[チュ]ン	[ヤツ]ン	[ヤチュン]
2b1	結う(髪を)	[ユー]ユン	ユ[ー]イ[ン]	[ムス]ブ[ン]	[ユーユン]
2b1	呼ぶ	[ユブ]ン	ユ[ブ]ン, [ア]ビ[ン] (大声で)	[ユブ]ン (OK)	[ユビン]
2b1	寄る	[ユー]ユン	ユ[イ]ン	[ユイ()]ン	[イチュン(家に), タツ[クワ]ユン(側)に)
2b1	湧く(水が)	[ワチュ]ン	ワ[チュ]ン	[ワツ]ン	[ワチュン]
2b1	割る	[ワユ]ン	ワ[イ]ン(ガラスを)	[ワユン, [ワイ]ン]	[ワユン]
2b2	会う[合]	[イチャ]ユン (行き会う)	[アー]イ[ン] (計算も)	[イチャ]イ[ン; アー[イ]ン, アー[ユ]ン]	[イチャ]ユン
2b2	編む	アム[ン]	[ア]ム[ン]; [ク]ミ[ン] (帽子を)	アム[ン]	アミ[ン]
2b2	打つ	ウチュ[ン]	[ウ]ツ[ン]	ウツ[ン]	ウチュ[ン]
2b2	腰む(腫物が)	ンム[ン, ン[ド]ン (進)	? (腰はウ[ミ])	ウミ[ン]	ンミ[ン]
2b2	折る	ウユ[ン]	[ウ]イ[ン]~ウイ[ン]	ウイ[ン] (主), ウユ[ン]	ウユ[ン]
2b2	書く	カチュ[ン]	[カ]チュ[ン]	カツ[ン]	カチュ[ン]

類 項 目	仲 地	機 間	比 嘉	謝 名 堂
2b2 勝つ	カチュ[ン]	[カ]ツ[ン] (OK)	カツ[ン]	カチュ[ン]
2b2 切る	チュ[ン]	チ[ン]	チュ[ン], チ[ン]; [チミ]ユン (髪を)	チュ[ン]
2b2 食う	カム[ン] (囓む)	[カ]ム[ン], [カ]ミ[ン]	カム[ン]	カミ[ン]
2b2 組む (肩を)	クム[ン]	[ク]ミ[ン], [ク]ム[ン]	クム[ン]	クミ[ン]
2b2 漕ぐ	クジュ[ン]	[ク]ジュ[ン]	クズ[ン]	クジュ[ン]
2b2 裂く (紙を)	サチュ[ン]	[サ]チュ[ン]	サツ[ン] Cf. サキ[ユ()]ン (裂ける)	[ヒツ]チュン (引き裂く)
2b2 刺す (針を)	サス[ン]	[サ]ス[ン]	サス[ン]	サフ[ン]
2b2 剃る (髭を)	スユ[ン]	[ス]イ[ン]	スユ[ン], スイ[ン]	スユ[ン]
2b2 立つ	タチュ[ン]	[タ]チュ[ン]	タツ[ン]	タチュ[ン]
2b2 着く (到着)	チチュ[ン]	[チ]チュ[ン]	チツ[ン]	チチュ[ン]
2b2 付く (手に)	チチュ[ン]	[チ]ツ[ン], [チ]チュ[ン] も	チツ[ン] (最初は[チツ]ンと)	チチュ[ン]
2b2 照る	ティユ[ン]	ティ[ン]	ティ[ン]	ティユ[ン]
2b2 研ぐ	トウジュ[ン]	[トウ]ジュ[ン]	トウズ[ン]	トウジュ[ン]
2b2 取る	トウユ[ン]	トウイ[ン]	トウイ[ン], トウユ[ン]	トウユ[ン]
2b2 綱う (縄を)	ノーユ[ン]	[ノ]ーイ[ン]	ノー[ユ]ン	ノー[ユン] (OK)
2b2 生る (実が)	ナユ[ン]	[ナ]イ[ン]	ナユ[ン], ナイ[ン]	ナユ[ン]
2b2 縫う	スユ[ン]	[ス]ーイ[ン]	ノー[ユ]ン	ノー[ユン]
2b2 脱ぐ	スジュ[ン]	[ス]ジュ[ン]	スズ[ン]	スジュ[ン]
2b2 練る (粉を)	ニ(ー)ユ[ン]	[ニ]ー[ン]	ニー[ユ]ン	クニ[ユン] (こねる)
2b2 飲む	ヌム[ン] (OK)	[ヌ]ミ[ン], マ[ン]ヌミ[ン] (丸呑みする)	ヌム[ン]	ヌミ[ン] (OK)
2b2 這う	ホーユ[ン]	[ホ]ーイ[ン]	ホー[ユ]ン	ホー[ユン]
2b2 掃く	ホーチュ[ン]	[ハ]チュ[ン]	ホーツ[ン]	ホー[チュン]
2b2 吐く (唾を)	ハチュ[ン]	[ハ]チュ[ン]	トウ[ン] [ペー]_スン (唾をする); [アギ]ユン, ハツ[ン] (嘔吐)	ハチュ[ン]
2b2 剥ぐ (皮を)	ハジュ[ン]	[ハ]ジュ[ン]	ハズ[ン]	ハジュ[ン]
2b2 吹く (風が)	フチュ[ン]	[フ]チュ[ン]	フツ[ン]	フチュ[ン]

類	項目	仲地	様間	比嘉	謝名堂
2b2	降る	フユ[ン]	[フ]イ[ン]~フイ[ン], フ[イ]	フユ[ン]	フユ[ン]
2b2	干す (洗濯物を)	フス[ン]	[フ]ス[ン]~フス[ン]	フス[ン]	フス[ン]
2b2	掘る	フユ[ン]	[フ]イ[ン]~フイ[ン], フ[イ]	フユ[ン]	フユ[ン]
2b2	蒔く (種を)	マツ[ン]	[マ]チュ[ン]~マチュ[ン]	マツ[ン]	マチュ[ン]~マ[チュン]
2b2	待つ	マチュ[ン]	[マ]ツ[ン]	マ[ツン]	マチュ[ン]
2b2	蒸す (飯を)	ムス[ン]	[ン]プス[ン]	ンプ[ス]ン, [ムス]ン, [ムシ]ユン	ンプ[フ()]ン
2b2	持つ	ムチュ[ン]	[ム]ツ[ン]	ムツ[ン]	ムチュ[ン]
2b2	漏る (雨が)	ムユ[ン]	[ム]イ[ン]	ムユ[ン]	ムユ[ン]
2b2	酔う (酒に)	ウィーユ[ン]	[ウィー]ーイ[ン]	ウィー[ユ]ン (車, 船も), フ[ネー]_スン (船酔い, する)	ウィー[ユ()]ン (乗り物も)
2b2	読む	ユム[ン] (OK)	[ユ]ム[ン]	ユム[ン]	ユミ[ン] (OK)
2b3	居る	[ウン]	[ウン]	[ウン]	[ウン]
2bz	蹴る	キユ[ン]	キ[ン], [キ]ラリ[ン] (受)	キユ[ン]	キユ[ン]
2c1	為る	[スン]	[スン]	[ス()]ン	[スン]
2d2	来る	チュ[ン]	チュ[ン]	ツ[ン]	チュ[ン]
2e2	ある (金が)	ア[ン]	ア[ン]	ア[ン]	ア[ン]
3a1	開ける [明]	[アキ]ユン	ア[キ]ン	[アキ]ユン	[アキ]ユン
3a1	上げる (手を)	[アギ]ユン	ア[ギ]ン	[アギ]ン	[アギ]ユン
3a1	当てる (籤を)	[アテイ]ユン	ア[テイ]ン	[アテイ](イ)ン, [アテイ]ユン	[アテイ]ユン
3a1	入れる	[イリ]ユン, チミユ[ン] (詰)	イ[リ]ン	[イリ]ユン	[イリ]ユン
3a1	植える	[ウィー]ユン	ウィー[ーイ]ン	[ウィー]ユン	[ウィー]ユン
3a1	替える	[ケー]ユン	ケ[ーイ]ン	[ケー]ユン	[ケー]ユン
3a1	欠ける (皿が)	[カキ]ユン	カ[キ]ン	[カキ](ユ)ン	[カキ]ユン
3a1	借りる	[カリ]ユン	カ[リ]ン	[カイ]ン, [カユ]ン	[カユン]
3a1	枯れる	[カリ]ユン	カ[リ]ン	[カリ]ユン	[カリ]ユン
3a1	消える (火が)	[ケー]ユン	ヒャ[ーリ]ン	[チャー]ユン, [ケー]ユン (ともに火 も電気も)	[ケー]ユン
3a1	着せる (子供に)	[クシ]ユン (OK)	ク[シ]ン	[クシ]ユン	[クシ]ユン

類	項目	仲地	備間	比嘉	謝名堂
3a1	暮れる (日が)	[クリ]ユン	キ[リ]ン	[クー]ユン (ju[: 夜が暮れると言 う]<->[アキ]ン	[クユン
3a1	呉れる	[クイユ]ン	ク[イ(-)]ン	[クユ]ン	[クン (OK)
3a1	越える	[クイー]ユン	クエ[-イ]ン	[クイー]ユン	[クイー]ユン
3a1	染める	[スミ]ユン	ス[ミ]ン	[スミ]ユン	[スミ]ユン
3a1	漬ける	[チキ]ユン	チ[キ]ン	[チキ]ユン	[チキ]ユン
3a1	抜ける (抜ける)	スギユ[ン (OK)	[ス]ギ[ン	スギ[ユ]ン	[スギ]ユン (主), [スキ]ユン
3a1	濡れる	[ンディ]ユン	[ン]ディ[ン Cf. [ン]ディチ]ン (雨に濡れた衣類)	[ン]ディ[ユ]ン	[ンディ]ユン
3a1	乗せる [載]	[スシ]ユン	ス[シ]ン	[スシ]ユン	[ノー]シュン
3a1	腫れる (でき物)	[ハリ]ユン	ハ[リ]ン	[ハリ]ユン	[ハリ]ユン
3a1	惚れる	[フリ]ユン	フ[リ]ン	[フリ]ユン	[フリ]ユン
3a1	負ける	[マキ]ユン	マ[キ]ン	[マキ]ユン	[マキ]ユン
3a1	曲げる	[マギ]ユン	マ[ギ]ン	[マギ]ユン	[マギ]ユン
3a1	咽(む)せる	チマユ[ン (OK)	ム[シ]ン	x. [シキ]_スン (咳する), チチ[ツ]ン (咳が続く)	[ムシ]ユン
3a1	燃える	[メー]ユン	メ[-イ]ン	[メー]ユン	[メー]ユン
3a1	瘦せる	[ヨー]ガリ(ユ)ン	ヨ[-ガリ]ン, ヤ[シ]ン	[ヨー]ガリ(ユ)ン<->クエー[ユン	[ヨー]ガリユン
3a1	やめる (止)	[ヤミ]ユン	ヤ[ミ]ン	[ヤミ]ユン	[ヤミ]ユン
3a1	寄せる	[ユシ]ユン	ユ[シ]ン	[ユシ]ユン	[ユー]シュン (OK)
3a2	生きる (百歳まで)	イチユ[ン	[イチ]チュ[ン, [イチ]チュ[ン	イチ[ツ]ン	イチユ[ン
3a2	出る [いでる]	ンジュ[ン	[ン]ジ[ン	ンジ[ユ()]ン	ンジ[ユ()]ン
3a2	受ける (検査を)	ウキユ[ン	[ウ]キ[ン	ウキ[ユ()]ン	Cf. ンジヤ[フン (出す) ウキ[ユ]ン
3a2	起きる (朝～)	ウキユ[ン	[ウ]キ[ン	ウキ[ユ]ン	ウキ[ユン
3a2	落ちる	ウチユ[ン	[ウ]チ[ン	ウチ[ユ]ン	ウティ[ユン
3a2	下りる	ウリユ[ン	[ウ]リ[ン	ウリ[ユ]ン	ウリ[ユン
3a2	掛ける (声を)	カキユ[ン	[カ]キ[ン	カキ[ン, カキ[ユ]ン	カキ[ユン

類	項目	仲 地	備 間	比 嘉	謝名堂
3a2	肥える	クエーユ[ン]	[クエー]ーユ[ン]	クエー[ユ]ン	クエー[ユ(I)]ン, クエー[トウ]ン (進)
3a2	下げる (頭を)	サギユ[ン, サギ[ン]	[サ]ギ[ン]	サギ[ン, サギ[ユン]	サギ[ユ(I)]ン
3a2	覚める	サミユ[ン]	[サ]ミ[ン]	サミ[ユ]ン	サミ[ユン]
3a2	締める [閉]	シミユ[ン (首を); [クー]ユン (閉)]	[シ]ミ[ン]	シミ[ン, シミ[ユ]ン]	シミ[ユン]
3a2	過ぎる	スギユ[ン (OK)]	[ス]ギ[ン]	スギ[ユ]ン	スギ[ユン]
3a2	建てる	タティユ[ン]	[タ]ティ[ン]	タティ[ン, タティ[ユ]ン]	タティ[ユン]
3a2	詰める	チミユ[ン]	[チ]ミ[ン]	チミ[ユ]ン	チミ[ユン]
3a2	解ける (水に)	トウキユ[ン]	[トウ]キ[ン]	トウキ[ユ]ン	トウキ[ユン]
3a2	投げる	ナギユ[ン]	[ナ]ギ[ン]	ナギ[ユ]ン	ナギ[ユン]
3a2	撫でる	ナディユ[ン (OK)]	[ナ]ディ[ン]	ナディ[ユ]ン	ナディ[ユン]
3a2	舐める	ナミユ[ン]	[ナ]ミ[ン]	ナミ[ユ]ン	ナミ[ユン]
3a2	馴れる	ナリユ[ン]	[ナ]リ[ン]	ナリ[ン, ナリ[ユ]ン]	ナリ[ユン]
3a2	跳ねる	ハニユ[ン(油), [トウブ]ン(人, 豆)]	[ハ]ニ[ン]	ハニ[ン, ハニ[ユ]ン]	ハニ[ユン]
3a2	晴れる	ハリユ[ン]	[ハ]リ[ン]	ハリ[ユ]ン	ハリ[ユン]
3a2	吠える (犬が)	[ナチュ]ン (鳴く, 大声でも)	ナ[チュ]ン	[ナツ]ン (犬がナク), [タカ]ナチュ_スン (狼が)	アビ[ユン]
3a2	誉める	フミユ[ン]	[フ]ミ[ン]	フミ[ユ]ン	フミ[ユン]
3a2	見える (舟が)	ミーユ[ン]	[ミ]ーユ[ン]	ミー[ユ]ン	ミー[ユン]
3a2	見せる	ミシユ[ン]	[ミ]シ[ン]	ミシ[ユ]ン	ミシ[ユン]
3a2	茹でる (卵を)	ユリユ[ン (OK)]	[ユ]リ[ン]	ユリ[ユ]ン	ユディ[ユン]
3a2	分ける (みんなで)	ワキユ[ン]	[ワ]キ[ン]	ワキ[ユ]ン	ワキ[ユン]
3b1	上がる (値段が)	[アガ]ユン	ア[ガイ]ン	[アガ]イン, [アガ]ユン	[アガ]ユン
3b1	遊ぶ	[アジ]ブ	ア[シ]ビ[ン]	[アシ]ブ	[アシ]ビン
3b1	当たる	[アタ]ユン	ア[タ]イ (OK)	[アタ]ユン	[アタ]ユン
3b1	洗う	[アラ]ユン	ア[レー]ン	[アレー](ユ)ン (OK), [アラ]ユン	[アレ]ン

類 項目	仲 地	機 間	比 嘉	謝 名 堂
3b1 荒す(畑を)	[アラ]スン	ア[ラス]ン	[キザ-]スン (OK) (鶏, 犬が), カツァ-[スン (掻き回す, ぐちゃぐ ちゃにする), <今>[アラ]スン [ウツ]ン (浮く), [ウカ]バスン(舟を)	[アラ]スン [ウカ]ピン
3b1 浮かぶ	[ウカ]ブン (頭に), [ウチュ]ン (水に) アビユ[ン	ウ[チュ]ン		アビ[ユン, <今>[ウタ]ユン
3b1 歌う		ウ[デー]ン, ウ[タユ]ン		
3b1 送る (人; 小包を)	[ウク]ユン (ともに)	ウ[クイ]ン		[ウク]ユン
3b1 威す (驚かす)	ウルル[カ]スン	[ウル]ルカス[ン	<古>[ウデー]ン. (鶏, 軍鶏が) [ウク]イン, [ウク]ユン, (ともに)	ウル[ルカ]フン
3b1 踊る	[モ-]ユン (舞う)	モ[-ユ]ン, モ[-イ]_スン, ウ[ドゥ]イ_スン	ウドゥル[カ]スン (わっと) [モ-]ユン	[モ-]ユン
3b1 終わる	[ウワ]ユン <x>シマユン	シ[マイ]ン		[オワ]ユン <x>シマユン
3b1 飾る	[カザ]ユン	カ[ザイ]ン		[カザ]ユン
3b1 代わる [変]	[カワ]ユン	ケ[-イ]ン		[カワ]ユン
3b1 下だす(腹を)	コース[ン (壊す)	[サ]ギ[ン (下げる)	サギ[ユ(I)]ン	ヤン[ジュ(I)]ン
3b1 下だる (船で)	ウリテイ[チュ]ン (降りて 来る)	[サ]ガイ[ン, イ[チュ]ン (行く). ス[ブイ]クダイ[イ]は言う が, 動詞はないかも	Cf. サギグ[スイ (下剤) x (II)がない Cf. [ヌブイ]クダイは言う	ムリ[ユン (戻る) <->[イチュン
3b1 窪む	クブム[ン ?]	ク[ブム]ン		[クブ]ン (OK)
3b1 暮らす	[クラ]スン	ク[ラス]ン		[クラ]フン
3b1 削る	[キジ]ユン	キ[ジン]		[キジ]ユン
3b1 殺す	[クル]スン	ク[ルス]ン (ぶん殴る意)		[クル]フン
3b1 晒す	[アテイ]ユン (当てる)	サ[ラス]ン		フス[ン (干す)
3b1 沈む (舟が)	[シズ]ムン	シ[ズム]ン		[シジ]ミン
3b1 違う	[チガ]ユン	チ[ガイ]ン		[チガ]ユン (OK)
3b1 散らす	[チラ]スン	チ[ラス]ン		[チラ]フン

類	項目	仲地	備間	比嘉	謝名堂
3b1	使う	[チカ]ユン	チ[ケー]ン	[チケー]〔ユ〕ン (OK)	[チケ(∅)]ン
3b1	続く	[チジ]チュン	チ[ジツ]ン	[チジ]ツン	[チジ]チュン
3b1	繋ぐ(縄で)	[チナ]ジュン	チ[ナズ]ン	[チナ]ズン	[チナ]ジュン
3b1	飛ばす	[トゥバ]スン(順番, 車を)	トゥバ[バス]ン	[トゥバ]スン	[トゥバ]フン
3b1	鳴らす	[ナラ]スン	ナ[ラス]ン	[ナラ]スン	[ナラ]フン
3b1	並ぶ	[ナラ]ブン	ナ[ラビ]ン	[ナラ]ブン	[ナラ]ピン
3b1	握る	[ニジ]ユン	ニ[ジル]ン, ニ[ギン]	[ニジ]ユン	[ニジ]ユン
3b1	眠る	[ニン]ジュン	ニ[ンジュ]ン	[ニン]ズン (OK)	[ニン]ジュン
3b1	上げる(船で)	[ヌブ]ユン	ヌ[ブイ]ン	[ヌブ]ユン (船に乗る意)	[イチュン (行く)
				<-> ウリ[ユ]ン	
3b1	外す	[ハジ]スン	ハ[ズス]ン	[ハン]スン (OK)	[ハン]スン
3b1	拾う	[ヒリ]ユン	ヒ[レーユ]ン, ヒ[レー]ン,	カメー[ユ]ン (拾って自分のものに),	トゥメー[ユン (OK)
			[カメ]ーユ[ン	アチ[ミ(∅)]ン (ごみを)	
3b1	曲がる	[マガ]ユン	マ[ガイ]ン	[マガ]ユン	[マガ]ユン
3b1	磨く(歯を)	[ミガ]チュン	ミ[ガチュ]ン	ミガ[ツ]ン	ミガ[チュン (OK)
3b1	向かう(那覇に)	[ムカ]ユン, [イチュ]ン	イ[チュ]ン (行く)	[ンケー]ユン, [ンカ]ユン	[ンケン, [ンカ]ユン
3b1	貰う	イユ[ン (得る)	イ[ン	イユ[ン	イユ[ン
3b1	譲る	[ユジ]ユン,	ユ[ズイ]ン	[クユ]ン, [クイ]ン (一般);	[クユン
		[クユ]ン (呉れる)		[ユジ]ユン (財産)	
3b1	沸かす(湯を)	フカス[ン(湯を),	ワ[カス]ン	[ワカ]スン	[ワカ]スン
		[ワカ]スン (風呂)			
3b1	笑う	[ワラ]ユン	ワ[レー]ン	[ワラ]イン	[ワレ(∅)]ン
3b2	扇ぐ	オージュ[ン	[オー]ジュ[ン	オー[ズ]ン	オー[ジュン
3b2	余る	アマユ[ン	[ア]マイ[ン	アマ[ユ]ン	アマ[ユン
3b2	急ぐ	イスジュ[ン	[イ]スズ[ン	イス[ズ]ン	イス[ジュン
3b2	恨む	ウラム[ン	[ウ]ラミ[ン	ウラミ[ユ]ン, ウラ[ム(∅)]ン	ウラ[ミン
3b2	選ぶ	イラブ[ン	[イ]ラビ[ン	イラ[ブ]ン	イラ[ピン
3b2	拝む	ウガム[ン	[ウ]ガム[ン	ウガ[ム]ン	ウガ[ミン

類	項目	仲地	様間	比嘉	謝名堂
3b2	起こす (朝～)	ウクス[ン]	[ウ]クス[ン]	ウク[ス]ン	ウク[スン]
3b2	思う	ウミ[ン], ウムユ[ン]	[ウ]ミ[ン]	ウム[ン], ウム[ユ]ン	ウミ[ン], ウミ[ユ]ン
3b2	泳ぐ	ウィージュ[ン]	[ウィ]ージュ[ン]	ウィー[ズ]ン	ウィー[ジュ]ン
3b2	下ろす (金を)	ウルス[ン]	[ウル]ス[ン]	ウル[ス]ン	サギ[ユン] (ズボンも)
3b2	懸かる (金が)	カカイ[ン]	[カ]カイ[ン]	カカ[ユ]ン	カカ[ユン]
3b2	被る (帽子を)	カブユ[ン]	[カ]ブイ[ン]	カン[ズ]ン	カン[ジュン]
3b2	乾く	カラチュ[ン]	[カ]ーキ[ン]	カー[キユ]ン	【キは中上昇】 [カー]ラチュン (乾かす)
3b2	崩す	コース[ン] (壊す, 山を, <x>金)	[コ]ース[ン] (壊す), [ク]ズス[ン]	クス[ス]ン	クス[フン] (OK)
3b2	曇る	クムユ[ン]	[ク]ムイ[ン]	クム[ユ]ン	クム[ユン]
3b2	下がる (値段が)	サガユ[ン]	[サ]ガイ[ン] (ぶら下がる意も)	サガ[イン], サガ[ユ]ン	サガ[ユ]ン
3b2	絞る (雑巾を)	シブユ[ン]	[シ]ブイ[ン]	シブ[ユ]ン	シブ[ユン]
3b2	滑る	シビユ[ン]	[シン]ディユ[ン] (滑り台で, 滑って軽く転ぶ)<->[ルゲ]ーイ[ン] (坂から転ぶ), [ウ]ティイ[ン] (試験で)	シン[リ](ユ)ン (足が, 滑り台で)	スベ[ユン]
3b2	倒す	トース[ン]	[ト]ース[ン]	トー[ス]ン	トー[フン]
3b2	頼む	タスム[ン] (OK)	[タ]スミ[ン]	タス[ム]ン	タス[ミン]
3b2	頼む	[カチ]ムン (OK)	[チ]カミ[ン]~[チ, カ]ミ[ン]	チカ[ム]ン	チカ[ミン]
3b2	作る	ツクユ[ン] (OK)	[ツ]クイ[ン]	ツク[ユン] (OK)	ツク[ユン]
3b2	包む	チチム[ン]	[チ]チム[ン]	チチ[ム]ン	チチ[ミン]
3b2	通る (試験に)	トゥーユ[ン]	[トゥ]ーイ[ン]	トゥー[ユ]ン	トゥー[ユン]
3b2	尖る	トゥガユ[ン]	[トゥ]ガイ[ン]	トゥガ[ユ]ン	トゥガ[ユ]ン
3b2	届く (手が)	トゥドゥチュ[ン] (手紙), チチュ[ン] (手が)	[トゥ]ドゥク[ン]	トゥル[ツ]ン	【イッ】チャカユン
3b2	直す [治]	ノース[ン]	[ノ]ース[ン]	ノー[ス]ン (ともに)	ノー[フン]
3b2	直る [治]	ノユ[ン]	[ノ]ール[ン]	ノー[ユ]ン (ともに)	ノー[ユン]
3b2	流す (水に)	ナガス[ン]	[ナ]ガス[ン]	ナガ[ス]ン	ナガ[フン]

類 項目	仲 地	機 間	比 嘉	謝 名 堂
3b2 習う	ナラユ[ン, ナリユ[ン	[ナ]レー[ン	ナラ[ユ]ン, ナレー[ユン, ナレー[イン	ナ[レン
3b2 濁る	ニグユ[ン	[ニ]ングイ[ン, Cf. [ニ]ングワ[ス (濁らす)	ニグ[ユ]ン (最初ニング[ユ]ン)	ニン[グ(I)ユン, ニグ[ユン
3b2 拭く	ヌグユ[ン, フチュ[ン (拭く)	[ヌ]グイ[ン	ヌグ[ユ]ン	ヌグ[ユン
3b2 盗む	ヌスム[ン	[ヌ]スム[ン	ヌス[ム]ン	ヌス[ミン
3b2 残す [遺]	ヌクス[ン	[ヌ]クス[ン	ヌク[ス]ン	ヌク[フン
3b2 残る	ヌクユ[ン	[ヌ]ク[イ	ヌク[ユ]ン	ヌク[ユン
3b2 延ばす	ヌバス[ン	[ヌ]バス[ン~[ヌバ]ス[ン	ヌバ[ス]ン	ヌバ[フン
3b2 計る (量を)	ハカユ[ン	[ハ]カイ[ン	ハカ[ユ]ン	ハカ[ユン
3b2 挟む	ハサム[ン	[ハ]サム[ン	ハサ[ム]ン	ハサ[ミン
3b2 走る	ハユ[ン (運動会, 遅刻しそうで)	[ハ]イ[ン (OK)	ハー[ユン, ハユ[ン	ハユ[ン~ハ[ユン
3b2 払う (金を)	ハラユ[ン	[ハ]レー[ン	ハラ[ユン, ハレー[ユン	ハ[レン
3b2 孕む (子を)	カサギ[ユ]ン (人も), カサギ[ト]ン (進)	[ハ]ラ[ム	カサ[ギ]ン, カサギ[ユ]ン. (人も)	カサ[ギユ(I)ン (人も)
3b2 光る	ヒカユ[ン	[ヒ]カ[ル	ヒカ[ユ]ン	[アカ]ガユン (夜明け, 太陽)
3b2 交じる	マジュ[ン	[マ]ン]チュ[ン	マジ[ユ]ン	マン[チュン, マン[ギユン
3b2 守る	メーユ[ン	[マ]ムイ[ン	マム[ユ]ン	マム[ユン
3b2 迷う (道に; 判断)	マヨユ[ン (ともに)	ミ[チバツペ]ー_スン (道迷いする), ハ[ン]ダンバツペ]ー_スン (判断迷いする)	マユ[ン? (何かあったはずだが)	ヤマ[リユ]ン; マユ[ン
3b2 戻る	ムドウユ[ン	[ム]ドウユ[ン	ムル[ユ]ン	ムドウ[ユン
3b2 休む (休憩; 学校)	ユクユ[ン; ヤシム[ン	[ヤ]スム[ン (ともに)	ユク[ユ]ン (昔は学校にも言った)	ユク[ユン; ヤシ[ミン
3b2 許す	ユルス[ン	[ユ]ルス[ン, [ヌガ]ーラス[ン (のがらせる. 構わず放っておく)	ユル[ス]ン	ユル[フ]ン
3b3 歩く	アラチュ[ン	[ア]ルチュ[ン	アッ[ツ]ン (OK)	アッ[チュン, アリ[チュ(I)ン

類	項目	仲地	構間	比嘉	謝名堂
3b3	隠す	カクス[ン]	[カ]ジミ[ン (仕舞う意も), [カク。]ス[ン [イ]ン ア[ン]リー[ン]	カッ[ク]スン, カン[ミ]ユン, カク[ス()]ン [イ]ン ア[ン]ディユン	カン[ミ]ユン [イ]ユン [ア]ン]ディユン
3b3	入る (風呂に)	[イ]ユン			
4a1	溢れる	[ア]ン]ディン, [ア]ン]ディト[ン (進)			
4a1	埋める (穴に)	[ウ]ミ[ユン	ウ[ン]ミ[ン]	[ウ]ン]ミ(ユ)ン	[ウ]ン]ミユン
4a1	生まれる	[ン]マ]リユン	[ン]マ]リ[ン]	[ン]マ]リユン	[ン]マ]リユン
4a1	遅れる	[ウ]ク]リユン	ウ[ク]リ[ン]	[ウ]ク]リユン	[ウ]ク]リユン
4a1	固める	[カ]タ]ミユン	カ[タ]ミ[ン]	[カ]タ]ミ[ン]	[カ]タ]ミユン
4a1	始める (仕事を)	[ハ]ジ]ミユン	ハ[ジ]ミ[ン]	[ハ]ジ]ミ[ン, [ハ]ジ]ミユン	[ハ]ジ]ミユン
4a1	外れる	[ハ]ジ]ユン	ハ[ジ]ミ[ン]	[ハ]ン]ディユン	[ハ]ン]ディユン
4a1	膨れる	[フ]ク]リユン	フ[ク]リ[ン]	[フ]ッ]クユン	[フ]ッ]クユン
4a1	忘れる	[フ]シ]ユン	フ[シ]リ[ン]	[フ]ッ]シユン	[フ]ッ]シユン
4a2	納める (税金を)	ウサミ[ユ]ン	[ウ]サミ[ン]	ウサミ[ユ]ン	ウサ[ミ()]ユン
4a2	覚える	ウビユ[ン]	[ウ]ビー[ン]	ウビ[ユ]ン	ウビ[ユ]ン
4a2	崩れる	クジリ[ユ]ン	[ク]ズリ[ン]	クジリ[ユ]ン; シンディ[ユ]ン(崖)	クジ[リ()]ユン
4a2	尋ねる	タジリ[ユ]ン	<古>[タ]ジ[ン, [タ]ジニ[ン	タジニ[ユ]ン, タジ[ニ]ン	タジ[ニユ()]ン~タジ[ニ]ユン
4a2	流れる	ナガリ[ユ()]ン	[ナ]ガリ[ン]	ナガ[リ]ン, ナガリ[ユ]ン	ナガ[リ]ユン
4a2	乱れる (髪, 心が)	ワッ[サ]ン (悪い, ともに)	ン[ジャリユ]ン	ミダリ[ユ]ン; ジャー[マ]スン	ミダ[リ()]ユン, ミダ[リ]ユン と二度下がりも. (ともに)
4a2	破れる	クジリ[ユ]ン, [マキ]ユン (試合に負ける)	[ヤ]ン]ディ[ン (着物, 仲が)	ヤリ[ユ]ン	ヤン[ディ()]ユン, ヤリ[ユ]ン
4a2	別れる (友と, 離婚)	ワカリ[ユ]ン (ともに)	[ワ]カリ[ン]	ワカリ[ユ]ン, ワカ[リ]ン	ワカ[リ]ユン~ワカ[リ()]ユン
4bz	疑う	[ウ]タ]ガユン	ウ[タ]ゲー[ン]	[ウ]タ]ゲーユン, [ウ]タ]ガイ[ン, <古>[ウ]タ]ゲー[ン	[ウ]タ]ゲン (OK)
4bz	重なる (日にちが)	[カ]サ]ナユン	カ[サ]バイ[ン, カ[サ]ビー[ン (他)	[カ]サ]ナイ[ン, [カ]サ]ナユン	[カ]サ]ナユン
4bz	固まる	[カ]タ]マユン	カ[タ]マ[イ]	[カ]タ]マユン, [カ]タ]マイ[ン]	[カ]タ]マユン, クワハ[ユ]ン (OK)

類	項目	仲地	饅頭	比嘉	謝名堂
4bz	始まる (仕事が)	[ハジ]マユン	ハ[ジマ]イン	[ハジ]マイン, [ハジ]マユン	[ハジ]マユン
4bz	働く	[ハタ]ラチュン	ハ[タラ]チュン	[ハタ]ラツン	[ハタ]ラチュン
4bz	預かる	アジカ[ユ]ン	[ア]ジカイン	アジ[カ]イン	アジ[カユ()]ン
4bz	集まる	アチマ[ユ]ン, アチミ[ユ]ン(他)	[ア]チマイン, [ア]チマ[イ, [ア]チミ[ン(他)	アチ[マ]イン	アチ[マユ]ン
4bz	乾かす	[カー]ラカスン	カ[ーラ]カスン	カー[カス]ン	カー[カ]フン (OK)
4bz	助かる	タシカ[ユ]ン	[タ]シカイ[ン	タシ[カ]イン~タシ[カイ]ン	タシ[カ]ユン (OK)
4bz	追い越す	[ワイ]ークスン	ワイ[ーコー]クスン	[ワイ]ークスン	[ワイ]ーヌジュン (追い抜く)
4bz	追いつく	[ワイ]ーチチュン	ワイ[ーチキユ]ン	x	[ワイ]ーチキユン
4bz	掻き出す	コーチュ[ン	カ[チ[ン]ジャス[ン (2単位?)	カ[チ[ン]ジャスン, ンジャ[ス]ン; <古>サバ[ツン (髪, 溝を) [トウ]ジマ[ー]_スン	?, [クミン (水を, 汲む)
5bz	跳び回る	?	トウ[ビマ]ーイン	ネ[ー]ラ[ン	[トウ]ビ[ハニ]ユン
2k2	無い	ネーラ[ン	[ネ]ーラ[ン	ネ[ー]ラ[ン	ネ[ン
2k2	良い	[マシ (増し)	[イーム]ン<ヤ[ナム]ン, ほとめて[イームンヤ]ナム[ン, <稀>[ユタ]サ[ン (雅語)	[イ]ー()ム[ン (良いもの), <今> ジョー[ト]ー(上等), ユタ[サ()]ン, ユタ[シ()]ク (挨拶で, よろしく); シブ[サ]ン	ジョー[ト]ー(上等)
2kz	酸い	シッパ[サ]ン	[シ]ー[サ]ン	[アカー (名), [アカ]サン	シー[ハ]ン
3k1	赤い	[アカサ]ン	ア[カサ]ン	[アカー (名), [アカ]サン	[アカー (名), [アカハ]ン
3k1	浅い	[アササ]ン	ア[ササ]ン	[アッ]サン	[アッ]サン
3k1	厚い (板が)	[アチサ]ン	ア[チサ]ン	[アチ]サン	[アチハ]ン
3k1	甘い	[アマサ]ン	ア[マサ]ン	[アマ]サン	[アマハ()]ン
3k1	荒い [粗]	[アラサ]ン	ア[ラサ]ン	[アラ]サン	[アラハ()]ン
3k1	重い	[ンブサ]ン	ン[ブサ]ン	[ンブ]サン	[ンブハ()]ン
3k1	固い	クハ[サ]ン (こわい)	カ[タサ]ン	クファ[サ]ン	クファ[サ]ン (OK)
3k1	軽い	[ガッサ]ン	ガッ[サ]ン	[ガッ]サン	[ガッ()]サン
3k1	暗い	[クラサ]ン	ク[ラサ]ン	[クラ]サン	[クラハ]ン
3k1	遠い	[トウーサ]ン	トウ[ーサ]ン	[トウー]サン	[トウー]ハン (OK)
3k2	青い	[オーサ]ン	オ[ーサ]ン	オー[ル]ー (名), オー[サ]ン	オー[ル]ー (青色, 名)

類	項目	仲地	儀間	比嘉	謝名堂
3k2	熱い (湯が)	アチ[サ]ン	[アチ。]サ[ン]~[ア]チサ[ン]	アチ[サ]ン	アチ[ハ]ン
3k2	痛い	ヤム[ン] (病む)	[ヤ]ミ[ン]	ヤ[ム]ン	ヤミ[ン]
3k2	旨い (味)	マー[サ()]	[マ]ーサ[ン]	マー[サ]ン	マー[ハ]ン
3k2	多い	ウフ[サ]ン<=>エテラ[サ]ン	[ウ]フサ[ン]	ウフ[サ]ン	ウフ[サン] (OK)
3k2	辛い	カラ[サ]ン (唐辛子, 塩)	[カ]ラサ[ン]	カラ[サ]ン	カラ[ハ]ン
3k2	清い (きれい)	チュラ[サ()]	[ツ]ラサ[ン]	ツラ[サ]ン	チュラ[ハ]ン
3k2	臭い	クサ[サ]ン	[ク。サ]サ[ン]~[ク]ササ[ン]	クサ[サ]ン	クサ[ハ]ン
3k2	黒い	クル[サ]ン	[クル]ー(名), [クル]サ[ン]	クル[ー(名), クル[サ]ン]	クル[ハ]ン
3k2	悪い (恐ろしい)	ウトウル[サ]ン	[ウトウル]サ[ン]	ウトウル[サ]ン (OK)	ウトウ[ラ]ハン
3k2	白い	シル[サ]ン	[シル]サ[ン]	シル[ー(名), シル[サ]ン]	シル[ー(名), シル[ハ]ン]
3k2	高い	タカ[サ]ン	[タ]カサ[ン]	タカ[サ]ン	タカ[ハ]ン
3k2	近い	チカ[サ]ン	[チ]カサ[ン]	チカ[サ]ン	チカ[ハ]ン
3k2	強い	チュー[サ]ン	[ツ]ーサ[ン], [ツ]ーバ[ー]	ツー[サ]ン	チュー[サン] (OK)
3k2	長い	ナガ[サ]ン	[ナ]ガサ[ン]	ナガ[サ]ン	ナガ[ハ]ン
3k2	苦い	ンジャ[サ]ン	[ン]ジャサ[ン]	ンジャ[サ]ン	ニガ[ハ]ン
3k2	早い [速]	ヘー[サ]ン (ともに)	[へ]ーサ[ン]	ヘー[サ]ン	ヘー[サン] (OK)
3k2	低い	クーサン (OK), ヒク[サン]	[ヒ]クサ[ン]	ヒク[サ]ン	ヒク[サ()]
3k2	広い	ヒル[サ]	[ヒ]ルサ[ン]	ヒル[サ]ン	ヒル[サン]
3k2	深い	フカ[サ]	[フ]カサ[ン]	フカ[サ]ン	フカ[ハ()]
3k2	太い	マギ[サ]ン (=大きい)	[マ]ギサ[ン] (大)	マギ[サ()] (大), マギ[ー(名), [ブッ]デー, [ブッ]トゥルー, クエー[トウ]ン (肥えている), <今>フトウ[サ]ン	フトウ[サ()] (大), マギ[ハ]ン
3k2	古い	フル[サン] (OK)	[フ]ルサ[ン]	フル[サ]ン	フル[サン]
3k2	欲しい	フー[サ]ン	[フ]ーサ[ン]	フー[サ]ン	フー[サン]
3k2	安い	ヤッ[サン]	[ヤ]ッサ[ン]	ヤッ[サ]ン	ヤッ[サ()]
3k2	若い	ワカ[サン]	[ワ]カサ[ン]	ワカ[サ]ン	ワカ[ハ()]

類	項目	仲地	機関	比嘉	謝名堂
3k2	悪い	ワッ[サ]	[ワッ]サ[ン]	ワッ[サ]ン	ワッ[サ]
4kz	危ない	デー[ジ](大事だ)	[ウカ]ーサ[ン]	ウカー[サ]ン	ウカー[ハ]
4kz	嬉しい	ウッ[サ]ン	[ウ]ッ[サ](名), [ウッ]サ[ン]	ウッ[サ]ン	ンム[サ(l)]ン (OK)
4kz	大きい	マギ[サ]ン	[マ]ギサ[ン], [マ]ギ[ー](名)	マギ[サ]ン	マギ[ー](名), マギ[ハ]ン
4kz	涼しい	シラ[サ]	[シ]ラサ[ン]	[スガ]リ(ユ)ン	シラ[ハ(l)]ン
4kz	小さい	[クー]サン (=低い, OK), ヒク[サ]ン (OK)	[グ]ナサ[ン]	グマ[サ]ン	グマ[ハ(l)]ン
4kz	短い	ミジカ[サ]	[イ]ン]チャサ[ン]	イ[ン]チャ]サン (OK)	イ[ン]チャ]ハン
5kz	新しい	[ミ]ーサ]ン	ミ[ーサ]ン, ミ[ーム]ン	[ミ]ー]サン	[ミ]ーハ]ン
5kz	面白い	ウム[サ]	[ウ]ムサ[ン]	ウム[サ]ン	ンム[サ]